

# 理事長所信

常滑青年会議所 2021年度

第60代理事長 富田 紘介

## 【はじめに】

第2次世界大戦後、精神的にも物質的にも荒廃した日本を一刻も早く再建するために1949年に日本で青年会議所が設立されました。そして1962年。社会を我々青年が中心となり青年らしい方法で、より一層明るい社会にしようという理想のもと常滑青年会議所が設立され、テンポの速い時代に即応し明るい新しいまちづくりを推進していくことを使命とし、その想いを脈々と語り継ぐことで、常滑の発展に寄与されてきました。

しかし、2020年新型コロナウイルス感染症の影響により、我々が未だ経験したことのない事態を前に多くの活動が止まり、社会的、経済的、そして政治的にも大きく、普段の日常生活でさえ脅かされる先行きの見えない時代となりました。

この混沌とした時代の中だからこそ、常滑青年会議所の設立趣意書にある「現在の社会を我々青年が中心となり青年らしい方法で、より一層明るい社会にしよう」という戦後間もない創始者の想いを振り返り、JAYCEEとして一刻も早く住みよい社会にすることを考え、今常滑に何が求められているのかを追求し、運動を展開していくことが必要であると考えます。

そして2021年度は、常滑青年会議所の運動として、この先どうあるべきかを宣言した「常滑JC充愛ビジョン」の10年という節目を迎えます。愛する常滑のためにより良い未来を想像し、まちの人々に感銘と衝撃を与えてきた先輩諸兄姉から受け継がれる常滑青年会議所の活動を振り返り、常滑に「明るい豊かな社会」の実現に向けて今後のビジョンを考え、この先10年20年と常滑から必要とされる存在となれるよう精進してまいりましょう。

## 【まちを想う気持ち】

この常滑は伝統産業である常滑焼をはじめ、温和な気候なため農畜産業や漁業も盛んがあります。近年では中部国際空港、大型商業施設、愛知国際展示場など多くの発展を遂げ、宅地開発が進み人口の増加、観光などで多くの人が入り出すようになってきました。そして常滑の人々は育った地域を誇りに思い、子どもの頃から伝統行事や祭礼に参加し、大人にな

ると自分達が育った地域に住み、子どもたちや地域のために貢献したいと思う気持ちが強くあるまちであると思います。この産業、文化、人など魅力がある常滑をまちの人々がより知ること興味をもち、多くの魅力に触れることで、自らのまちを想う気持ちが更に芽生えると思います。

近年の情報化社会、そして昨今新型コロナウイルス感染症の影響で、人から人へ面と向かって伝えるという今までの手段が変化しており、人との繋がりが希薄になってきております。

この時代の中であるからこそ、我々世代が受け取ったまちへの想いを新たな世代に伝え繋げ、まちへの感謝の気持ちをもち、能動的に行動できる新たなまちのリーダーが必要であると考えます。自分達の住むまちから多くの想いを受け取っていると思います。その想いを胸に自らが立ち上がり魅力を発信することが継続的なまちづくりであると考えます。

そして我々JAYCEEは、今何が求められているかを真剣に議論し、地域に根ざした青年らしい活動を果敢に展開していく必要があります。我々の活動している姿をまちの人々に発信することで、まちへの想いを共感する気持ちが醸成し、自らがまちに貢献できる人財へと成長していきましょう。

#### 【組織について】

青年会議所の組織は単年度制という特徴があり、毎年違う役職を担うこととなります。この仕組みは入会して卒業までに様々な役職を体験することで、多くの経験や学びを得ることができ自身の大きな成長へと繋げることができます。

そして組織は信頼関係で成り立っています。組織の中にはそれぞれの役職があり、預かった役職をしっかりと理解し、自分のやるべきことを全うするからこそ信頼関係ができるのです。そして組織としてお互いが協力し合わなければなりません。青年会議所の活動をしているのは自分一人だけではなく、自分のために力を貸してくれるメンバーがいます。共に活動しているメンバーと連携を図り、強い信頼関係を築きあげ更なる強固な組織にしていきましょう。

また、来る60周年に向けて改めて歴史を学び、常滑JC充愛ビジョンが掲げた目標に対して今までの活動が展開できているのか検証し、時代に即した組織へと変化しなければなりません。この先従来と同様な進め方が難しくなる時代になるからこそ、多くの活動をされてきた先輩諸兄姉の想いを引き継ぎ、今ある常滑青年会議所の活動や運営などを一つひとつ見直し、今後も常滑から必要とされる組織であり続けていきましょう。

#### 【友情拡大】

青年会議所には修練・奉仕・友情という3信条があります。この友情なくして共に活動はできません。利害関係なく常にその人のために何ができるかを考え、多くの時間を共有しながら意見を交わし、時には衝突することもあります。しかし、自分のために相手が言ってくれているという想いをしっかりと受け入れてください。必ず自己の成長へと繋がります。そしてお互いが意

見を交わし合うことでの友情関係を築くことができます。それはどの時代でも薄れることはなく、脈々と受け継がれてきており、常滑だけでなくすべての青年会議所が同じ思いをもっていると思います。青年会議所のネットワークを生かし、出会った機会を大切にすることで同志である他の青年会議所メンバーと生涯を共にできる多くの友情を育みましょう。

そして会員拡大も同じであると考えます。メンバーは青年会議所の楽しさや学び、多くの経験が自分のためになっているからこそ在籍し、候補者のためにも思い青年会議所に誘います。

現在青年会議所の全国平均在籍年数は4年となり、会員減少は止まりません。常滑青年会議所においても私が入会した当初の半分以下の人数となってしまいました。なぜ拡大が成功しないのかをメンバーで考え合い今一度我々の活動を見直し、青年会議所の可能性を感じていただけるように伝えなければなりません。20歳から40歳未満の品格ある青年であれば誰でも入会ができます。候補者は我々の活動、行動を見て入会します。常に見られていると意識し一期一会の気持ちをもって相手と関わり、熱い想いを伝えることで新たな仲間をつくっていきましょう。

#### 【結びに】

私は2010年度7月に入会させていただきました。入会した当初は一番年下で知っているメンバーは1人だけであり、その方とも数回会ったことのある程度でした。しかし、2011年度ブロックアカデミー委員会に出向し、青年会議所のことがわからない県下のメンバーと知り合い、多くの時間を共にすることで友情が生まれ、その人のために何かをしてあげたいと思う気持ちを育むことができました。それからは徐々に青年会議所が楽しくなり、役職を受けた先輩の頑張りに協力をできることはないかを考え常に委員会に参加をしました。そして委員長という役を受け、できない自分のために、時には厳しいことも言われながら毎日一生懸命に時間を割いてくれたやさしい先輩がいました。そして困っている私に対して何か協力できないかと思い、仕事・家族の時間を犠牲にして委員会に参加してくれるメンバーがいました。その人たちの貴重な時間を無駄にさせないために委員会の開始数分前まで資料作成をした覚えがあります。青年会議所は人のために時間を使っています。そのことをしっかりと噛みしめ青年会議所をやっていたいただきたいと思います。

2021年度第60代理事長を預かることとなり、入会して11年間育てていただいた私が唯一お返しできることとしては、先輩諸兄姉からいただいた想いを胸に秘め、常滑のためそしてメンバーのために時間を使うことだと思っております。

皆様1年間どうかご支援、ご協力よろしくお願い致します。